

令和4年度 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 学校評価書(別紙)		最終評価							
学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		次年度に向けて	関係者評価
				達成状況	評価	達成状況	評価		
1 高い目標を掲げ、チャレンジし、世界のリーダーとして活躍する人材を育成する。	(1) 大学等と連携した研修会等に参加させ、高い進路意識や志望を持たせ、自己実現のための努力を促す。	進路課	志望校調査・進路アンケートなどの結果やその推移をもとにして、重点目標の達成状況を総合的に評価する。 A 進路アンケート「主体的な学習ができていますか」という項目に対する肯定的な回答が80%以上、学校評価アンケート質問項目9「学校では一人一人に応じてきめ細かく適切に指導がなされている」の肯定的な回答が90%以上 B Aに満たず、一昨年度の結果(85%)と等しい C Bに満たない	・進路講演会については、8月までの6年と4年のは予定通り実施。他学年についても、感染対策のうえ、9月の下旬以降に実施可能な範囲でそれぞれ実施する予定である。 ・今年度は対面実施のオープンキャンパスも多く、参加を促したが、8月の感染者増加で参加を見送った者もいた。各学年とも進路情報の提供や面談等を通して進路意識の高揚を図っている。 ・生徒の志望状況については、難関大志望も多く、全体的に高い目標設定ができています。 ・達成状況の評価については、2学期実施予定の進路アンケートや学校評価アンケートの結果をもとにして評価する。	・進路アンケートの「主体的な学習ができていますか」という質問項目に対する肯定的な回答は「1年：90%、2年：85%、3年：85%、4年：77%、5年：71%、6年：87%」という結果であり、多くの生徒が自己実現に向けて前向きに努力することができた。 ・学校評価アンケートの質問項目7(昨年度は9)については、82%となっており、昨年度(91%)と比較すると数値が下がっている。特に充実期において数値が低い。 ・生徒の志望状況についても、難関大や国公立大の医学科などレベルの高い大学を目指している生徒が多く、それぞれが高い進路目標を持つことができた。(東大・京大・医学科など最難関大の志望者の総数は、6年42名 5年62名 4年52名)	・学校アンケートの結果は、年次が進むにつれて中下位層への手当てが薄くなっていることが一因ではないかと思われる。 ・本年度は国公立大学の総合型・学校推薦型選抜への出願(予定含む)が数が1月10日時点で延べ46名あり、年々増加している。高い進路意識によって、それぞれが自分の特性を生かした多様な入試にチャレンジした結果であると思われる。一般入試だけでなく、総合型・学校推薦型の受験希望者を学年だけでなく、学校全体でバックアップしていく体制が必要になってきている。			
	昨年年度A								
	(2) 各種コンクール、セミナー等へ参加させ、外部人材との積極的な交流により、視野の拡大を図る。		グローバル教育推進室	参加生徒に対してアンケートを実施し、その結果を基に総合的に評価する。 A アンケートの肯定的回答が80%以上 B アンケートの肯定的回答が60%以上 C Bに満たない。	・羽ばたけ大安寺Day 参加者全員にアンケートを実施し、肯定的回答が4学年平均91.2%であった。5年生2名がトビタテ！留学高校生コースを利用し夏季短期研修を行った。4年生1名がカナダに8月から1年間留学に出発した。	・トビタテ！で海外短期研修をした5年生2名が成果報告会を行って自らの経験を学年全体に伝え共有した。アンケート結果で「二人の留学の報告は興味深かった」…99%「報告を聴いてグローバル社会を身近に感じた」…92%など、多くの生徒が興味を持ち学ぶことができた。 ・英語ディベート大会後のアンケートで、「自分以外の人から学ぶことがあった」、「高校生英語ディベートに参加して満足している」…100%、参加者全員が充実感をよく表した。	・コンテスト等大会に毎年続けて参加して成果を上げており、参加者の満足度も高いが、例えば、英語ディベート参加者アンケートのうち、「自分の経験を友達や他の生徒に伝えたいと思う」…83%で、他の質問に比して下回ることから、参加者の経験をいかに他と分かち合い、多くの利益とすることができるかを考えて取り組んでいきたい。		
R3年度はA									
(3) 多様な情報を読み取り、内容をまとめて相手に伝える力や、自分の考えを、話したり書いたりする力を身に付けさせることを目標に、「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能・5領域を伸ばすための授業を展開し、スピーチやディスカッションやディベートへと活動を広げていきたい。新型コロナ感染防止のため、マスクの着用と換気をしっかり行う。	英語科	A 各学年とも3時間を超えた。 B 各学年とも2時間から3時間程度であった。 C Bに満たない。		・マスク着用の上、換気等の対策を取ったうえで、各学年に応じた英語で話す機会を各学年1時間以上は持つことができた。 ・英語での問答やミニディベート的な取り組み等、普段の授業の中でレッスンに応じて行った。	・マスク着用の上、換気等の対策を取ったうえで、各学年に応じた英語で話す機会を各学年1時間以上は持つことができた。 ・英語での問答やミニディベート的な取り組み等、普段の授業の中でレッスンに応じて行った。学年によっては3時間以上ディスカッション・ディベートに関する授業を実施できなかった学年もあったが、全体的には意欲的に取り組めたと考えられる。	・次年度もこれまでと同様に読む・書く・聞く・話すの4技能のバランスの取れた授業展開を工夫していきたい。			
英検の準会場として年3回、一次試験の受験しやすい環境を作る。低い級から順に受験の雰囲気づくりをし、準級以上の者も本会場で抵抗なくチャレンジできるようにサポートする。		英語科	A 30%の生徒が目標レベル(B)に達している。 B 25%の生徒が目標レベル(B)に達している。 C Bに満たない。	・コロナ対策をしながら、今年度は英検も準会場となり受験しやすい環境を作ることができた。(第1、2回) ・検定の結果は年度末の報告となるが、これまでの英検対策などの取組などを元に総合的に評価する。	第3回の英検の結果はまだ出ていない状況なので、総括はできない状態だが、1・2回の結果から見て例年並みの成果は収めていると考えられる。	これまでと同様に英検を始めとした各種検定を積極的に受験するように促すと同時に対策講座などを行い、英語運用能力を高める指導を継続していきたい。			
2 自然に、あいさつを交わす校内の雰囲気醸成を図る。	自然にあいさつを交わすことのできる人間関係づくりに努める。 登下校時の校門指導や、交通委員が参加する朝の交通指導の中で、お互いがあいさつすることで人間関係作りが促される。	生徒課	すずんであいさつができたかどうかを学校評価アンケートの結果から評価する。 A:「よく出来ている」が全校の60%以上 B:上記が50%以上59%未満 C: Bに満たない	登下校時の校門指導や、交通委員が参加する朝の交通指導の中でお互いがあいさつできるようにしている。また、部活動に積極的に参加することも人間関係作りが促されている。 校門指導時の教員や係からの挨拶に対しては、よく返していると思われる。	学校評価アンケートの「積極的にあいさつをするよう心がけているか」という質問に対して、「とてもそう思う」の回答が、1年56%、2年58%、3年55%、4年65%、5年49%、6年47%となり、全体では55%という結果であった。昨年度の50%に比べると、よい結果ではあるが、目標は達成できていない。保護者・教員アンケートでも十分な結果ではないので、今後もあいさつが自然にできる雰囲気を作っていく。	・自然にあいさつについては、強制してさせるものではなく、学校生活が充実し、良好な人間関係づくりができることによって交わされる部分が多いのではないかと考えられる。 ・登下校時の校門指導や、交通委員参加の交通指導で、お互いがあいさつできるようにする。 ・白鷺祭等の学校行事に積極的に参加できるように、生徒会や委員会が一層の工夫をする。また、部活動は友人と苦楽を共にすることで、交友を深め人間関係作りが促されると考えられるので、部活動がしやすい環境作りが心がけ、あいさつが自然にできるような雰囲気作りをしていかなければならない。			
R3年度は50%									

